

城北公園再整備に向けた懇談会の提言書

難波 静岡市長 様

令和 7 年 10 月 30 日

市長には、日頃より静岡市のまちづくりや地域活動に深いご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

このたび、城北公園の再整備にあたり、懇談会を設けていただき、私たちが直接意見を交わす機会をいただけたことに、深く御礼申し上げます。

懇談会には、地域に暮らす住民、公園を利用する方々、子育てや教育に関わる方など、さまざまな立場の方々が参加し、それぞれの視点から意見を出し合いました。対話を通じて、城北公園が私たちの暮らしにとってどれほど大切な場所であるかを、あらためて実感することができました。

四季折々の自然、人とのふれあい、子どもたちの遊び場など、城北公園は地域の宝であり、私たち市民の誇りです。再整備にあたっては、こうした魅力を守りながら、次の世代にも愛される公園へと育てていきたいと願っています。

私たちは、特別な施設を求めているわけではありません。日々の暮らしに寄り添い、誰もが気軽に立ち寄れる、そんな公園を目指して、これからの公園に必要な機能や価値について、懇談会で話し合ってきました。

懇談会では、以下のようなことが公園としての基本的な条件であるという視点を大切にして話し合いを進めました。



1. 今の城北公園の良さを活かしながら、時代に合った多様な使い方ができるようにすること
2. 日常の安心・安全を守りつつ、災害時には避難場所としても機能するようにすること（特に高木の管理については、安全性や維持費などを考え、ルールを整えること）
3. 維持管理にかかる費用を抑えながら、持続可能な運営の仕組みをつくること
4. 多くの方が関われる仕組みや、参加したくなる工夫・仕掛け（インセンティブ）を考えること
5. これまで以上にみんなが集まれる「地域の居場所（パブリックコミュニティ）」をつくること
6. 障がいのある方、ベビーカーを使う方、ご高齢の方など、誰もが安心して使える（インクルーシブデザイン）ような空間づくりをすること

これらの視点は、この懇談会が単なる公園整備の要望を意見交換する場ではなく、多くの方が関わることで生まれる「関心（エンゲージメント）」「当事者意識（オーナーシップ）」「強い意志、思い入れ（コミットメント）」を育て、よりよい公園をみんなでつくっていくための第一歩になると私たちは考えています。

そして全5回の懇談会では、以下の項目が意見交換の主な内容となりました。

1. 住民参画の仕組み
2. コミュニティ・カフェ
3. 駐車場

4. 樹木管理（高木だけでなく低木も含む）

5. 安心・安全

懇談会は、1回目から3回目までは、少人数のグループに分かれ、設定したテーマに沿って、城北公園のイメージを出し合う作業を行いました。4回目は、全体討論という形式で、自由に意見が交わされました。5回目は、まとめの会となりました。

懇談会では様々な立場から多様な意見が挙がりました。城北公園を愛する次の世代のことを考えながら挙げた貴重な意見ばかりです。このため、意見を一つにまとめることはせず、それぞれの声を大切にしていきたいと考えています。

次のページに懇談会における主な意見をテーマ別にまとめさせていただきました。市長におかれましては、私たちの思いを参考としながら、今後の再整備の方針についてご検討いただきたいと思います。

最後に、今回の提言書は、計画の初めから様々な立場の方の声を取り入れ、一緒に考え、一緒につくっていくプロセスで作成しました。行政の立場からの貴重なご意見もいただきました。これは、まさに“協創”であり、“地域の力”を活かす新しいまちづくりのかたちだと感じています。今後のまちづくりが、地域の力を活かし、市民との対話を大切にしながら進められることを、心から願っております。

城北公園再整備懇談会メンバー一同

懇談会における意見(まとめ)

1. 住民参画の仕組み

- 維持管理費の低減による公園運営の持続可能性の向上
- より多くの住民が参加できる仕組み(プラットフォーム)の構築
- 参加を促す工夫・仕掛け(インセンティブ)の創設
- 住民と行政・専門家等をつなぐ中間支援組織の設置・活用の必要性
- 環境や動植物について学べる場としての活用による、教育的機能の強化
- 利用者の当事者意識(オーナーシップ)や関心(エンゲージメント)の向上
- マルシェの出店料やドッグランの使用料などによる収益事業の導入とその還元

2. コミュニティ・カフェ

- 公園内に過大な箱物施設はつぐらない
(キオスクやキッチンカーなども選択肢)
- 地域コミュニティの活動拠点としての機能が
必要
- 飲食や休憩が可能な基本的なカフェ機能
- 住民参画や地域協働をサポートする機能
- 図書館との連動を見据えた配置計画の検討

3. 駐車場

- 原則、園外で整備するが、園内駐車場は
管理棟前のスペースを活用し最小限とする
- 歩行者、利用者の安全確保に十分配慮
- 障がい者など多様な利用者に対応
- 広域からのアクセスに配慮し利便性の確保
- スポーツ、マルシェ利用などの利便性向上

4. 樹木管理(高木・低木)

- 高木:健全性低下のリスクと維持費の低減
- 低木:視界の確保による防犯性の向上
- 次世代に継承すべき緑の資産としての保全
- 日陰の確保、日射を遮るシェルター機能確保
- 樹木管理のルール化による管理コストの抑制
- 四季折々の楽しさと、富士山の眺望の確保

5. 安心・安全

- 日常的な清掃や遊具等の点検・維持管理の徹底(施設管理)
- 防犯の視点を取り入れた園内デザインと管理の工夫、視線の確保や自然な見守りの導入(防犯)
- 照明の増設による夜間の安全性向上(防犯)
- 災害時の避難場所としての機能を高め、防災拠点としての役割を強化する(防災)
- 駐車場への車両動線と歩行者動線の分離、園内における自転車動線と歩行者動線の分離(交通)
- 地面の段差や樹木の根上がりなどの障害物(ハザード)を除去し転倒事故を防止する(バリアフリー)
- 明るく清潔で、日常的に管理の行き届いたトイレ環境の整備(施設・衛生)

第1～5回懇談会で挙げた主な意見

1:住民参画の仕組み

根拠となる意見や課題
● 城北公園の維持管理やイベント等に、市民や企業が関わるための仕組みや組織(中間組織)を整備すること。 ● 専門的な人材が組織(中間支援組織等)に入って体制づくりを進める。 ● ゴミを集めたら、1コインもらえるなどインセンティブを与える。 ● 公園の中で花植えの活動をされている団体がいる。そのような団体の団員を増やしていく。 ● 市民が継続的かつ無理なく活動を行えるよう、市が活動しやすい環境を支援すること。 ● 愛護会に限らず、遠方の方も含めて参加可能な取組として運営すること。 ● ベンチの塗り替えもイベント的にやっていく。 ● 公園の管理スケジュールを作成し、色々な団体や近隣住民が維持管理の作業に参加できる仕組みがほしい。 ● 日本庭園を管理している専門業者の指導のもと参加者が学べるプログラムを設置。参加者の知識を蓄え、市民の管理の幅が広がる。

2:コミュニティカフェ

根拠となる意見や課題
● コミュニティ活動の核となる拠点が必要。(コミュニティカフェ) ● 新たに大規模な施設を整備する必要はない。 ● 清水船越堤公園 Park-PFI のカフェと地域活動の事例は大いに参考になるのではないか。 ● 清水船越堤公園の取組(コミュニティカフェ)はいいと思った。新しい建物は不要との意見があったが、コミュニティの場所づくりや利便性があがるのであれば、過剰なものでなければ新しい建物があってもいいと思う。 ● 子ども広場や芝生広場周辺に移動できるカフェやキッチンカー、キヨスクなどがあると良い。

- カフェは災害時に人を収容できないため不向きである。
- キッチンカーが出店しやすい電源を確保してほしい。
- 図書館前の芝生広場に読書テラスやベンチやチェアなど座れる環境がほしい。
- 図書館との連携は考えるべき。
- 図書館の中で軽食を食べられる空間、店舗がほしい。図書館の2階が空きスペースがあるので有効活用すべき。
- アイスクリームなどを販売する小さな店舗など軽食や飲み物が購入できる場所。
- 植込みへのゴミの投げ捨てが見受けられる。

3: 駐車場

根拠となる意見や課題

- 公園内に駐車場を整備することは安全面のリスクが生じる。
- 大岩車庫の利用。北側道路上駐車の数増、北側スポーツ広場駐車場及び静大附属幼稚園の有効利用を検討。
- グラウンドゴルフ利用者やスポーツ団体、三輪車などを利用する子育て世代、障がいのある方々が利用しやすくなるよう、管理棟前の駐車場を活用すること。
- マルシェ開催時や遠足用バスなどイベント時駐車場(乗降場)の確保する必要がある。
- 秋葉山公園や船越堤公園のように、公園外に駐車場を造ってほしい。駐車場が少ないので、公共交通機関を使うような姿勢も書いた方がよいのでは。
- 駐車場は、公園外が台数は最小限ではなく、出来る限り作ってほしい。幼児用の遊具を持ってくるための駐車場など子どもの視点も入れてほしい。
- 現状の路上駐車は、交通事故の恐れがあるため、道路に白線を引いて駐車場スペースを設ける。駐車場は園内に造らないが、身体が不自由な方や高齢の方向け用に既存の管理棟前駐車場を利用できるようにする。
- マルシェでは、路上駐車場、周辺有料駐車場も満杯。イベント時に使用できる既存駐車場を増やしたいので、そのような駐車場を事前に把握しておきたい。

4:樹木管理(高木、低木)

根拠となる意見や課題
● 安全と景観を両立してほしい。樹木管理をルール化してほしい。 ● 高さ 10 メートル以上の高木は、倒木の危険性があるため対策が必要である。今後、樹齢の進行に伴い健全性が低下し、さらに危険になることが懸念される。 ● 残すべき高木と伐採する高木を選定すべき。(図書館前の)ケヤキ並木は保存し、ヒマラヤ杉(やアケボノ杉)は伐採を検討する。 ● 特に(公園の)東側、西側の高木を低くしてほしい。(ツツジやサツキなどの)植え込みも見通しが悪く、死角が発生するため、剪定が必要。 ● 東側は小学生の通学路になっているため、安全を優先してほしい。 ● 植え替えも計画的に実施して、安定的に緑を確保していく。 ● 日常の維持管理は愛護会がしっかりやっているが、高木などは切ってほしい。 ● 日本庭園東側は光が入ってこない。また、あまりにも木が密集している。 ● 樹木管理のルール化で、樹木医が定期的に入ったうえで剪定してほしい。皆それぞれ木に愛着をもっている。伐採が決まった樹木は、事前に看板などで、どういう理由で伐採するのか前もって教えてほしい。 ● 樹木でモンパルナス側が真っ暗なので、明るく日が入るようにしたい。 ● 枯れ葉の問題がある。どう改善していくか。 ● 芝生広場や木陰。(が居心地の良い空間) ● 季節の花や緑が楽しめる。

5:安心・安全

根拠となる意見や課題
● 自転車の通行、置き場のルール化し、歩行者の安全を確保する。 ● ベビーカーでも安全に通行できるように園路の段差、木根による根上りを解消する。 ● 防災トイレ、防災かまど、防災ベンチなど防災施設を充実させる。 ● 夜間も安心して散歩やジョギングができるように、ソーラーパネルを電源とする照明や足元灯など明るい照明を設置。 ● 高木や植え込みにより見通しが悪く、死角が発生するため、剪定が必要。([提言4:樹木]と同じ)

- 日常の維持管理は愛護会がしっかりやっているが、高木などは切ってほしい。日本庭園東側は光が入ってこない。また、あまりにも木が密集している。
- 園路や排水設備の整備など、公園でやってもらいたいことは沢山あり何年もかかる。できるものから進めていくべきだ。
- 城北公園は「防災拠点」という認識を市民にもってもらいたい。
- トイレ施設の配置の見直し、洋式化への改修等。
- 公園内に駐車場を造ることは、車と人の動線、歩道がまじわることになるため危険。
- 夜の防犯対策として、地元交番の方や住民の方が抑止力のために、パトロールができないか。